

wtstyle.sty (v0.0)

ワトソン

2016 年 1 月 21 日

概要

WTStyle パッケージは著者が L^AT_EX 文書作成にあたってよく利用するマクロを集めたものである。wtstyle.sty はこの WTStyle パッケージを構成する要素の 1 つであり、著者が独自に作成したスタイルを手軽に利用できるようにする。現在は pT_EX エンジンと jsarticle 系クラスファイルの組み合わせのみをサポート対象としている。

1 パッケージ読み込み

\usepackage 命令を用いて読み込む。この際、利用する文書のスタイルをオプションで指定することができる。何も指定しない場合は、後述する基本設定のみを行う。

```
\usepackage[<スタイル>]{wtstyle}
```

2 用語の定義

wtstyle.sty において、読み込み時に指定する <スタイル> に関わらず、必ず設定される項目を基本設定と呼ぶ。wtstyle.sty では利用している文書フォーマットにおいて最も大きな構造単位（ただし \part 命令で指定する“部”の単位を除く）に与えられた通し番号をしばしば利用する。この通し番号を保持する L^AT_EX のカウンタを親カウンタと呼ぶことにする。具体的には \chapter 命令が存在する環境では章番号を表すカウンタ、そうでない場合には節番号を表すカウンタがこれに該当する。

3 基本設定

以下の 4 つが wtstyle.sty の基本設定である。

- 脚注の書式を“(脚注番号)”に変更する。脚注番号は 1, 2, 3, ... のように付けられ、\chapter 命令が存在する環境では章ごと、そうでない場合は節ごとにリセットされる。
- 式番号の書式を“(親カウンタ).<式番号>”)に変更する。式番号は 1, 2, 3, ... のように付けられ、親カウンタが更新される度にリセットされる。
- 図番号の書式を“(親カウンタ).<図番号>”)に変更する。図番号は 1, 2, 3, ... のように付けられ、親カウンタが更新される度にリセットされる。
- 表番号の書式を“(親カウンタ).<表番号>”)に変更する。表番号は 1, 2, 3, ... のように付けられ、親カウ

ンタが更新される度にリセットされる。

4 スタイル

既に述べたように〈スタイル〉はパッケージを読み込む際にオプションとして指定する。例えば simple スタイルを用いる場合には次のようにする。

```
\usepackage[simple]{wtstyle}
```

4.1 simple

4.1.1 依存パッケージ

simple スタイルは tcolorbox パッケージに依存する。当該パッケージの読み込みは自動的に行われるが、インストールはユーザ自身で行う必要がある。

4.1.2 上書きする書式

simple スタイルはクラスファイルの設定をあまり変更しないシンプルな書式である。〈chapter〉命令（およびその派生 〈chapter*〉命令など）が存在する場合、それらの命令により出力される見出しの見た目を変更する。それ以外は書式の変更は行わない。

4.1.3 使用可能な環境

simple スタイルは以下の 5 つの環境を提供する。

■definition 環境

定義を記述するための環境。途中で改ページ可能な枠で囲われる。

```
\begin{definition}[〈定義名〉]  
% ここに定義を書く  
\end{definition}
```

定義内容を出力する部分の前に“定義 〈親カウンタ〉.〈定義番号〉”という文字列が挿入される。〈定義名〉を指定した場合はさらに続けて“(〈定義名〉)”が出力される。〈定義番号〉は 1, 2, 3, … のように付けられ、親カウンタが更新される度にリセットされる。

■theorem 環境

定理を記述するための環境。途中で改ページ可能な枠で囲われる。

```
\begin{theorem}[〈定理名〉]  
% ここに定理を書く  
\end{theorem}
```

定理内容を出力する部分の前に“定理 〈親カウンタ〉.〈定理番号〉”という文字列が挿入される。〈定理名〉を指定した場合はさらに続けて“(〈定理名〉)”が出力される。〈定理番号〉は 1, 2, 3, … のように付けられ、親カウンタが更新される度にリセットされる。〈定理番号〉は後述する lemma 環境でも利用される。

■lemma 環境

補題を記述するための環境. 途中で改ページ可能な枠で囲われる.

```
\begin{lemma}[\補題名]  
% ここに補題を書く  
\end{lemma}
```

補題内容を出力する部分の前に“補題 〈親カウンタ〉.〈定理番号〉”という文字列が挿入される. 〈補題名〉を指定した場合はさらに続けて“(〈補題名〉)”が出力される.

■example 環境

例を記述するための環境.

```
\begin{example}  
% ここに例を書く  
\end{example}
```

例の内容を出力する部分の前に“例 〈親カウンタ〉.〈例番号〉”という文字列が挿入される. 〈例番号〉は 1, 2, 3, ... のように付けられ, 親カウンタが更新される度にリセットされる.

■proof 環境

証明を記述するための環境.

```
\begin{example}  
% ここに例を書く  
\end{example}
```

証明を出力する部分の前に“証明”という文字列が挿入される.